

式 辞

厳しい寒さが和らぎ、春の気配を感じる今日の佳き日に、PTA会長様、保護者の皆様方の御臨席のもと、愛知県立犬山南高等学校第四十一回卒業証書授与式を挙行できますこと、私共教職員のこの上ない喜びであります。また、皆様には、三年間にわたり、本校の教育に対する御理解と御協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

本日の主役である二百九名の皆さん、卒業おめでとうございませう。皆さんは、平成三十年四月の入学以来、三か年にわたり、暑さ寒さに耐えながら学習や学校行事、部活動等に励んできました。特にこの一年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、楽しい思い出ばかりではなく、苦しく辛いこともあったでしょう。「先が見えない」が故の不安と付き合いながら、それらを一つ一つ乗り越えて、今日を迎えることができたのだと思います。

皆さんは、本校を卒業後、進学あるいは就職という多様な方向に自分の歩を進めていくこととなりますが、共通しているのは、「自分が決めた人生がスタートする」ということでしょう。自分が決めたからこそ、最初から、誰かの助けをあてにするという訳にはいかなくなります。つまり、頼ることができるのは、自分自身ということです。「この先自分はどうしていけばよいのか」「自分の考えや行動は、本当にこれでよいのか」等、明確な答えが出ない、分からないという状況に置かれることとなります。

では、この先、どのように生きていけばよいのでしょうか。「そう言われてもよく分からない」というのが本音かもしれません。しかし、よく分からなくても、私たちは生きていかねばなりません。考えることをやめて、本能に従って生きていくのであれば、他の動物と変わりません。分からないことが多く、孤独や不安を感じる中で、人間として生きていくということについて、二つの点からお話します。

一つ目は、「疑ってみる」ことです。

デカルトという人物がいます。皆さんも習った、フランスの哲学者です。彼は「私は、あらゆることを疑ってみる。そんな私は、確かに信じられる存在である」というメッセージを残しています。「こうすれば、必ずうまくいく」「これまで皆がしてきた通りにすればよい」という、ありがちな言葉や考え方に対して、「本当にそれでよいのか」と疑ってみることで、嘘や思い込みをはぎ取り、だまされたり惑わされたりしない生き方をしていこうと言うのです。

疑うことは、相手を信じないということではありません。皆が、本当に信じられる拠り所を見つけ、もし自分が追い詰められたらそこに戻って考え直す、そして皆で良い方向へと状況を変えていこうという大きな力を生み出していくのです。

二つ目は、「やり抜くこと」です。

あるテレビ番組で、企業のトップが、経営方針等についてインタビューをされていました。この企業は、昨年一年間の売り上げが八千億円、グループ企業も入れると、従業員は一万八千人以上という

大企業です。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で、売り上げが前年の半分、約四割に当たる店舗を閉鎖、しかも初めて赤字となる見込みです。こんな状況にある企業の経営者に対して、インタビュアーは「どうすれば成功するのか」と質問しました。この問いに対し、経営者は、どう答えたと思いますか。彼は、「簡単なことです。成功するまでやればいいんですよ。」と返答したのです。インタビュアーはもちろん、番組を観ていた私も呆気にとられました。壊滅的だと言っても過言ではない状況にありながら、「成功するまでやればよい」、さらには「最大のチャンスだ」と、ニコニコしながら言い切ったのです。これまでに、何度も逆境を克服してきた人間の強さを垣間見た瞬間でした。

皆さん、自分が決めた人生がスタートします。他の誰かに責任を転嫁することができないからこそ、大きな孤独や不安が襲ってくることでしょう。そうした中において、「本当にこれでよいのか」と疑うことをとおして、信じる価値があるものを見つけてください。そして、自分の目標やそれを達成するための道筋に修正を加えながら、やり抜いてください。どうなるか分からない、先が読めないこれからを、「ただ生きている」だけでなく、「いきいきと生きていく・生き抜いていく」主役となってください。

皆さんが、ピンチに挑みながら、自らの手で、そして他の人たちと手を携えながら、明るく輝かしい未来を切り拓いていかれることを心から祈念して、式辞とします。

令和三年三月一日

愛知県立犬山南高等学校長

森 也寸司